

令和6年度 公共事業再評価調査

(区分) (国補)・ 県単

1. 事業説明シート

事業名		農地整備事業〔畑地帯総合整備事業(国補)〕		事業箇所	甲州市勝沼町菱山	地区名	菱山	事業主体	山梨県
計画期間	当初計画	現計画	変更計画	④特記事項(関連事業概要等) ・なし					
	H26~R4	H26~R6	H26~R8						
総事業費	2,800 百万円	3,517 百万円	3,850 百万円						
(1) 事業の概要				⑤これまでの評価状況(平成26年度事前評価) 本事業は、労力を要する地形、農家の高齢化、耕作放棄地の増加等の問題を抱える中で、農作業の効率化、担い手への集積、鳥獣被害による農地の遊休化防止等を進めて農業経営の安定化を図るために必要であり、実施が妥当である。					
①事業目的及び効果 本地区は甲府盆地の北東部に位置し、ぶどう、ももを主幹作物とした農業が営まれている県内有数の果樹産地である。 しかしながら、地域内の農道は幅員が狭く、農作業車両の乗り入れが困難であることや、狭小で不整形な農地が多いことから機械作業の導入が進まず、人力作業を中心とした営農体系であったため、担い手への農地集積の支障となっていた。 このことから、営農条件を改善させるため農道や区画整理等の基盤整備を実施することで、持続的な果樹生産の維持、発展を図ることを目的として事業を実施している。 □主要目標 ○農業生産力の向上 (面積当たりの農業所得増加額: 1,002千円/ha≧810千円/ha) □副次目標 ○農業用排水能力の向上 ○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 □副次効果 ○遊休農地の解消 ○農地の保全									
②事業概要				(2) 事業位置図等					
現計画 変更計画 用排水路 L=1,430m → L=672m 農道 L=7,930m → L=4,415m 区画整理 A=31.9ha → A=14.7ha 鳥獣害防止施設 L=9,500m → L=6,424m									
③全体計画									
現計画	工事内容	令和5年度まで 用排水路L=342m 農道L=3,967m 区画整理A=10.1ha 鳥獣害防止施設 L=6,424m	令和6年度 (評価実施年度) 用排水路L=1,088m 農道L=3,963m 区画整理A=21.8ha 鳥獣害防止施設 L=3,076m						
	事業費	2,985 百万円	532 百万円						
変更計画	工事内容	用排水路L=342m 農道L=3,967m 区画整理A=10.1ha 鳥獣害防止施設 L=6,424m	農道L=50m 区画整理A=0.3ha	令和7年度以降 用排水路L=330m 農道L=398m 区画整理A=4.3ha					
	事業費	2,985 百万円	99 百万円	766 百万円					
※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。									

2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

平成26年2月の豪雪により、地区内の農業用ハウスや果樹棚が倒壊し、果樹への被害が多数発生した。その早期な復旧と営農の再開を望み、これを機に消費者から評価の高いシャインマスカットへの転換を図る農業者が増加した。中には規模を拡大する担い手農業者も存在している。

現在ではシャインマスカットが成園化しており、計画されている基盤整備の必要性は十分理解しつつも、収穫樹の伐採を多く伴う工事箇所については、本計画期間内での実施は難しいとの地域の意見も多い。

一方で、豪雪の影響が少なく、合意が得られた区画整理や農道等については、早期の整備が求められている。

②産業・経済情勢

なし

③国等の方針

なし

④上位計画・関連事業計画等

やまなし農業基本計画(令和6年1月策定)

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項 目		着手時点	変更計画時点
総事業費		2,800 百万円	3,850 百万円
工 期		H26～R4	H26～R8
経済 効 率 性	評価基準年	H25	R6
	費用	3,010 百万円	3,641 百万円
	建設費	3,010 百万円	3,641 百万円
	便益	7,150 百万円	6,077 百万円
	走行経費削減効果	3,870 百万円	3,305 百万円
	作物生産効果	1,940 百万円	1,865 百万円
	営農経費節減効果	960 百万円	592 百万円
	その他※	380 百万円	315 百万円
B/C		2.4	1.7

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、品質向上効果、維持管理費節減効果、国産農産物安定供給効果

（3）これまでの計画変更等の概要

- 各農地の勾配などの営農条件に応じた、線形計画や構造物計画の見直しによる事業費の増。また、ぶどう棚や畑かんの移設が増えたことによる事業費の増。
- 物価高騰や労務単価の上昇を要因とする事業費の増。
- 区画整理において、換地計画の合意形成に日数を要したため、計画期間を令和6年度まで延期した。

（事業費） 717百万円の増

（計画期間） 2年延長

評価シート（２）

（４）事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R6年度進捗率（現計画）100%→（実績）87.7%→（変更計画）80.1%

②進捗率実績が計画と相違している理由

区画整理において、換地計画の検討や地権者との調整に日数を要したことによる。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
農道	774百万円の増	線形変更に伴い、路側・土留構造物の形状を変更したことや、また安全施設の追加施工や畑かんの移設が増えたことによる事業費の増。
	406百万円の減	区画整理内農道の減による事業量の減。
用排水路	60百万円の減	一部区間について他事業で整備したことによる事業量の減。
区画整理	386百万円の増	農地の大区画化に伴う切盛土量の見直しによる事業費の増。
	291百万円の減	高収益な品種への転換により、既に安定的な生産が開始されている計画箇所について、本事業から減とすることによる事業量の減。
鳥獣害防止施設	70百万円の減	一部区間について他事業でより広域的に整備したことによる事業量の減。
合 計	333百万円の増	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

区画整理において、換地計画に関わる地権者との調整に期間を要したが、合意が得られたことから計画的かつ効率的な実施に努め、工期を2年延長し、令和8年度の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

（５）環境負荷等への配慮

なし

（６）コスト縮減の可能性

なし

（７）代替案立案の可能性

なし

（８）所管部の今後の方針 継続・見直し継続・その他（ ）

（理由）

果樹生産の強化を図り、農業経営の安定化を実現するのに不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し、令和8年度の完了を予定している。
今回実施を見合わせる路線については、引き続き地域や関係機関と調整していく。

〇別表-進捗率（事業費ベース）

算出方法：【上段】現計画の計画事業費／総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費／総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費／総事業費×100

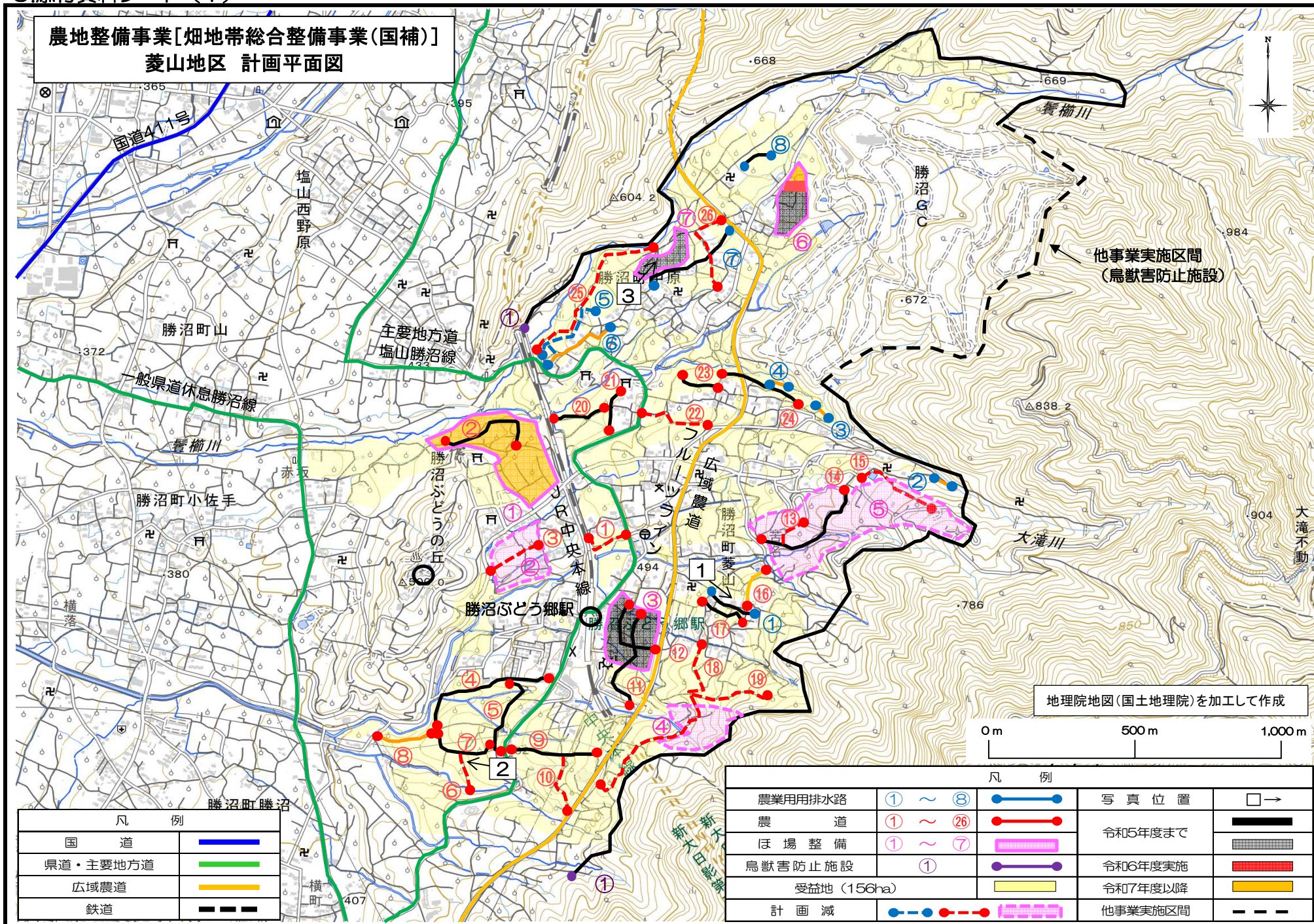
単位：％

	年度	*H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	*R6	R7	R8
現	計画	2.2	10.7	21.8	31.8	41.7	51.7	61.6	71.6	81.5	91.5	100		
	実績	2.2	11.9	20.9	28.7	38.1	47.2	56.6	63.5	75.1	84.9	87.7		
変更計画												80.1	90.3	100

*事業着手年度又は評価年度

*R6年度の実績は見込み

3.添付資料シート（1）



3.添付資料シート（2）

1

用排水路

整備前



- 既設水路の老朽化により漏水した水による湿害が発生していた。
また、崩れた法面の補修などの維持管理に多大な労力を要していた。



整備後



- 水路の整備により湿害が解消され、果樹の品質が向上するとともに
維持管理の労力が軽減された。

2

農道

整備前



- 幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり、また路面状態も悪いことから、
荷痛みが発生していた。



整備後



- 農道の整備により車両の安全なすれ違いが可能となった。
また、農作物の荷痛みが防止され、果樹の品質が確保された。

3.添付資料シート（3）

3 区画整理

整備前

工区面積
A=2.2ha
筆数：47筆



整備後

工区面積
A=2.2ha
筆数：23筆



- 整備前は農地が狭小で、耕作しづらい状態であった。
また、車両が通行できる農道に接していないことから、耕作放棄地が広がっていた。

- 整備により区画が拡大し、農地が道路に接したことから、農作業機械の導入が可能となり、営農効率が向上した。

整備前



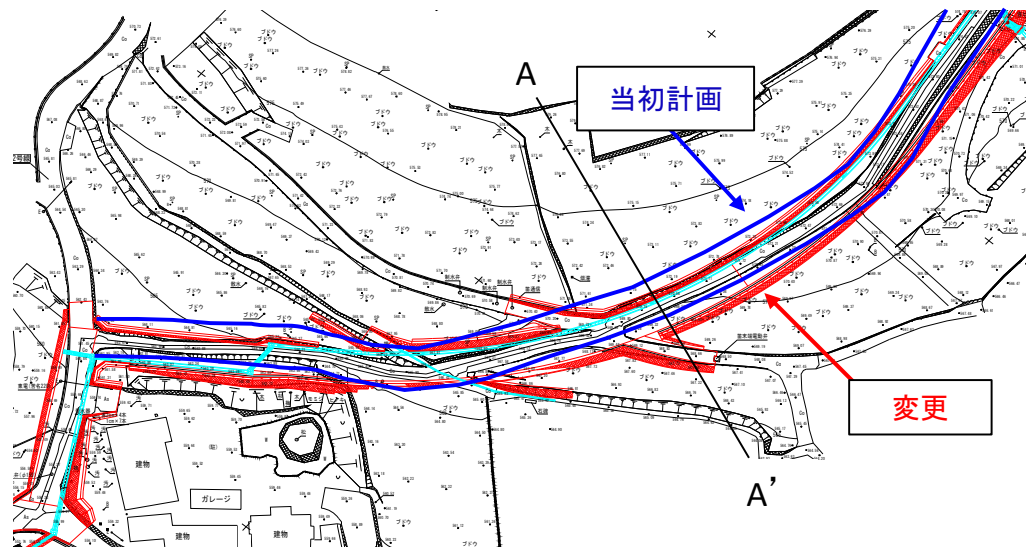
整備後



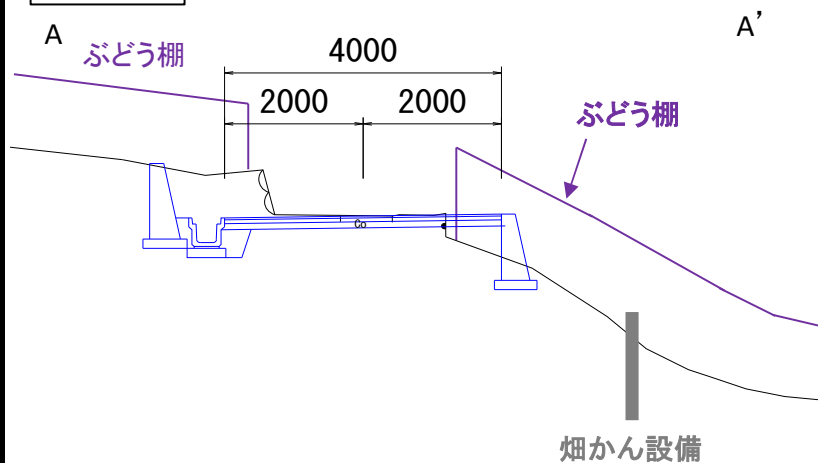
3.添付資料シート（4）

農道16号

増額理由

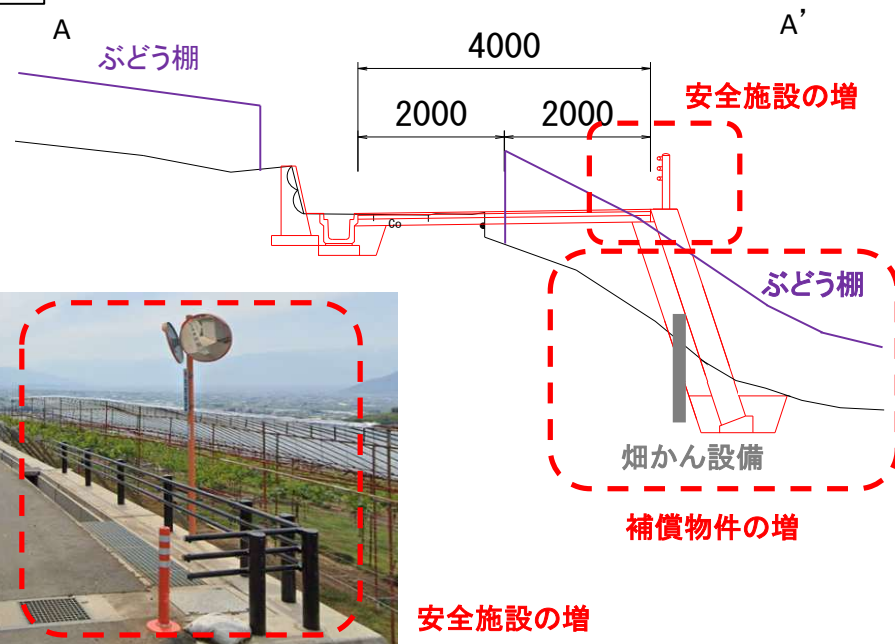


当初計画



- 傾斜の緩い農地の確保など営農条件に応じた農道の線形に見直し、それに伴い路側構造物の形状を変更した。また、ガードパイプなどの安全施設の追加施工や畑かん設備などの移設補償費が増となった。

変更



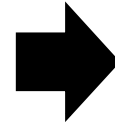
3.添付資料シート（5）

区画整理

減額理由



・平成26年2月には、山梨県全域に豪雪の被害があり、菱山地区内でも農業用ハウスやぶどう棚の倒壊、それに伴う果樹の損傷が多数発生し、大きな被害を受けた。



・被災前は巨峰、ピオーネ、甲州などの品種の栽培が中心であったが、被災を機にシャインマスカットへの転換が進み、現在では成園化している。また担い手農業者による規模の拡大も図られている。
収穫樹の伐採を多く伴う工事箇所については、再度収穫できるまで年数を要するため、本計画期間内での実施を見送ることになった。

4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H26	77,000	設計業務一式、鳥獣害防止柵L=2,486m	2.0
H27	341,000	設計業務一式、鳥獣害防止柵L=2,306m、農道L=733m	10.9
H28	316,800	設計業務一式、鳥獣害防止柵L=870m、農道L=750m	19.1
H29	275,000	設計業務一式、鳥獣害防止柵L=660m、農道L=326m、 区画整理A=0.3ha	26.2
H30	331,100	設計業務一式、鳥獣害防止柵L=102m、農道L=572m、 区画整理A=1.5ha、用排水路L=142m	34.8
R1	319,000	設計業務一式、農道L=342m、区画整理A=2.0ha	43.1
R2	331,100	設計業務一式、農道L=403m、区画整理A=0.5ha	51.7
R3	242,000	設計業務一式、農道L=307m、区画整理A=1.4ha	58.0
R4	407,000	設計業務一式、農道L=276m、区画整理A=2.4ha、	68.6
R5	345,400	設計業務一式、農道L=258m、区画整理A=2.0ha、 用排水路L=200m	77.5
R6	99,000	設計業務一式、農道L=50m、区画整理A=0.3ha	80.1
R7	391,600	設計業務一式、農道L=200m、区画整理A=2.3ha、 用排水路L=200m	90.3
R8	374,000	設計業務一式、農道L=198m、区画整理A=2.0ha、 用排水路L=130m	100.0
合計	3,850,000		